

私の意見

my opinion

つづみ
堤 寛

藤田保健衛生大学
医学部 病理学教授



▲愛知県の老舗有松絞りの蔵を借りた手作りコンサート。ピアノ伴奏は有松絞りの浴衣を着る寺田佐代子氏

「患者さんに顔のみえる病理医」 の実践と音楽の力

私とオーボエというダブルリード楽器との出会いは40歳を迎えた23年前。

師匠、東京都町田市在住の湊貞男氏は元東京フィル所属。2時間の個人レッスン料は一万円。リードを削れない私に、買えば1本三千円する新品リードを4本提供。どんなに練習不足でも叱らない、演奏の裏まで知る超ベテラン。リグータ社製のマイ楽器を選んでくれたのも湊先生だ。

12年来、私は医療者と患者と一緒に楽しむ音楽活動を実践している。2003年3月に発足したNPO法人びあサポトわかば会のおかげ。私は監事としてともに歩み、可能な限り活動に参加・体験学習してきた。心の支援を通じて、多くの悩めるがん患者と出会った。

一方、私はプロの病理医として、病理診断のセカンドオピニオンを無料で受け、診断内容を患者さんに直接説明する「患者さんに顔のみえる病理医」を実践している。

音楽は優れたコミュニケーションツールである（どこでも楽器持参！）。音楽は人の気持ちを解し、癒す。心を込めて演奏する曲には魂が入る。わかば会では医療者、患者、学生や障碍者による手作りの「輪の和」コンサートを毎年複数開催。「輪の和」とは支え合う輪、みなが作る音楽の和。

地元愛知の他、沖繩、与論島、草津、瀬戸内、横浜、東北の被災地、一関（岩手）と東松島（宮城）でも開催。昨年8月10日と本年8月16日には、長崎の浦上天主堂で平和を祈るコンサートを開催した。

NPO法人びあサポトわかば会理事長、ベテラン乳がん患者の寺田佐代子氏のピアノ伴奏で録音した医師と患者のハーモニー、「名刺代わりのCD」はすでに8枚。三重県志摩市の合歓の郷で録音したこの無料CDを何人の患者さんに配っただろう。リズム感、音感と技術に乏しいオジサンとオバサンの不思議な合奏。テーマは「愛の風」。

さまざまな場所で人と人が巡り会う活動を展開する中、誰もが平等で対等な関係で楽しめ、感動・共感・周囲の人への吸引力をもつ「音楽の力」を実感している。

横浜生まれ。1976年慶応大・医学部卒。同大学院、東海大医学部を経て、2001年6月より藤田保健衛生大・医・病理学教授。NPO法人びあサポトわかば会監事。オーボエ演奏歴24年。「患者さんに顔のみえる病理医」として、病理診断のセカンドオピニオン、患者さんの心のケアにつとめる。著書「患者さんに顔のみえる病理医からのメッセージ あなたの「がん」の治し方は病理診断が決める！」（三恵社・2012年）を手にとってほしい！